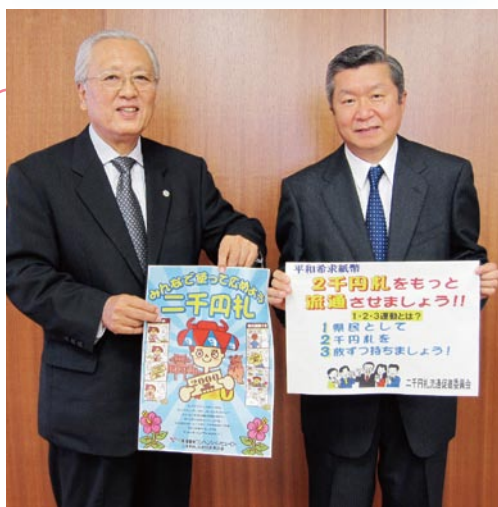


財 務 部



二千円札の普及を呼びかける湖城委員長(左)と竹澤局長

全国では、二千円札の発行高（流通量）が減少傾向にあります。ところが、沖縄県内では、平成21年10月末の発行高が324万枚と前年同月に比べて、4・2%増加しています。

沖縄県で増加傾向となっている理由として、一つは、絵柄の守札の門が、沖縄戦で破壊された後に

復興したものであるため、二千円札を「平和希求紙幣」とする見方もあって、県民の愛着が深いということが言われています。

二つ目の理由は、「二千円札流通促進委員会」を中心としたさまざまな普及活動があるからです。

特に、昨年10月、沖縄県で開催された日本青年会議所全国大会の参加者1万2千人を、「二千円札流通促進委員会」が、二千円札を県内外にPRする役割を担う「二千円大使」に認定したことで、普及に弾みがついたといわれています。

沖縄総合事務局としても、平成20年6月から7月にかけて、庁舎ロビーにおいて「二千円札を知るためのパネル展」を開催したり、同年6月に行われた普及街頭キャンペーンに、当局次長が参加する

など、県民に二千円札への理解と流通促進への協力を呼びかけてきました。

二千円札発行10周年を機に、「二千円札流通促進委員会」では、昨年12月から年明け1月までを「流通促進強化月間」として、二千円札のさらなる普及を図っています。

当局でも、昨年12月から1月まで、庁舎の電光掲示板で二千円札の使用を広く呼びかけているところ



二千円札PR用パネル(作成:国立印刷局)



電光掲示板で二千円札使用を呼びかけ

す。さらに本年は、庁舎ロビーでのパネル展なども企画しています。

「頑張れ、二千円札!」10周年を機に、みんなで二千円札を率先して使いましょう。



2000年7月の沖縄サミット開催を機に、二千円札が発行されて、今年は10周年を迎えます。

財務部理財課では、「二千円札流通促進委員会」(委員長・湖城英知氏)などとも連携して、一層の流通促進の取組を行います。

みんなが使おう二千円札 ～今年が発行10周年～